

こころみ



2007.11.26
担当：校長会

基礎・基本を身につける授業過程

1時間の授業の充実のために、**板書構成**について考える。

ある小学校の授業風景です。校内をまわっていったら、ちょうど終末の習熟を図る段階でした。この板書を見ると、1時間の授業の流れが一目で分かります。



課題をご覧ください。

「3けた×1けたの筆算は2けた×1けたの筆算と同じやり方でできるだろうか。」

「3けた×1けたのけいさんをしよう」と設定することが多いような気がしますが、この課題は前時の学習を生かしていることと、「～だろうか。」という表現なので、子どもの意識が自然と解決の方向に導かれていきます。

板書の文字やはどうでしょうか。

一字一字、児童に分かりやすく大変丁寧に書かれています。先生は、チョークも色を使い分けて丁寧に書いているので、児童も字を丁寧に書いており、ノートもたいへんきれいに整理されていました。

自作教具も児童の理解を助けています。

学級の児童全員が問題の意味を理解できるように、課題を達成できるように、日々、教具を作りながら指導しています。いかに効率的に指導するかが教師の力量と言えるのではないのでしょうか。

理解できないのは、児童・生徒のせいでも、家庭環境のせいでもありません。教師の指導にかかっています。どう指導したら、できるようになるか、分かるようになるか、私たちは悩みながら、研鑽を積みながら、児童・生徒の基礎・基本の習得を目指し、日々努力していきましょう。

板書は、発問と共に大切なものです。「板書を見れば、授業の善し悪しが分かる」といわれます。板書は、思考を深め、課題を追究していくためのものです。指導案は、児童生徒の多様な考えや思考の流れを予測しながら作りますが、同時に、板書の構成を考える必要があります。よい板書は、学習した内容が整理され、構造化されて児童生徒によく分かるようになっているものです。

板書の役割、意義として次の点を確認しましょう。

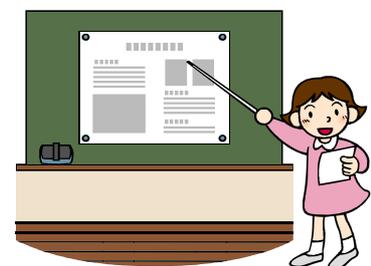


- ・ 学習の課題やポイントがはっきり分かる。
- ・ 学習の過程や方向性・流れが分かる。
- ・ 課題解決の手がかりや考えの拠り所を与え、思考の手助けになる。
- ・ みんなの考えを持ち合える場、みんなで考える場に、考えが生きる場になる。
- ・ 思考を整理する場になる。
- ・ ノートを書く際の手助けになる。 等

教師が児童生徒の考えを板書で位置づけたり、児童生徒に自ら板書させてたりすることにより、授業への主体的な参加を促すことにもなります。

板書をする際の留意点としては

- ・ 指導の計画に沿って、構想を練って板書計画を作る。
- ・ 学習課題は必ず板書する。(導入の工夫から学習課題を分かりやすい言葉で板書する)
- ・ 大切な事柄は目立つように色を変えたり、アンダーライン、大きく書くなどの工夫をする。(話し合いの視点や学習のまとめ等)
- ・ 新出用語や重点事項、要点等は児童生徒と確認しながら板書する。
- ・ 児童生徒の発言を板書するときは、表情や言葉、動作で共感し、要点を捉えて板書する。(背中で聞かない)
- ・ 一人一人の考えや立場を確認する場合は、ネームプレート等を用い板書に位置づけるなどの工夫をする。
- ・ 黒板全体を有効に使うようにレイアウトを工夫する。
- ・ 文字は正確に、後ろの席でも読めるように、見やすい大きさで書くようにする。
- ・ 文字や記号、図や絵の位置、間隔、チョークの色等を工夫する。
- ・ 板書する内容は要点を整理して書き、書きすぎないようにする。 等



普段当たり前のように活用している板書ですが、授業のねらいを効果的に達成させるために、自分の板書を改めて見直してみることも大切なことです。